

〒 113-0033

東京都文京区本郷 7 丁目 2-2 本郷ビル 9F

日本神経科学学会

TEL: 81-3-3813-0272 FAX: 81-3-3813-0296

The Japan Neuroscience Society

Hongo Bldg. 9F, 7-2-2, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

113-0033 Japan

E-mail:office@jnss.org <http://www.jnss.org>

Neuro2007



From September 10th (Mon) to September 12th (Wed), 2007 At Pacifico Yokohama

The date of Neuro2007 is approaching. This is a joint meeting of the 30th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, the 50th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurochemistry, and the 17th Annual Meeting of the Japanese Neural Network Society. Most recent research results from a wide range of fields in neuroscience will be reported and discussed.

The organizing committee has planned and prepared the meeting so that it will facilitate the interaction of neuroscience in Japan with various disciplines of science and technologies and with researchers in the world.

目 次 Contents

Neuro2007	1
(Neuro2007 第 30 回日本神経科学大会)	
Child Care Service at Neuro2007	4
(Neuro2007 大会託児室のご案内)	
平成 19 年度日本神経科学学会奨励賞受賞者が決定	4
日本神経科学学会理事選挙のお知らせ(予告)	5
生理学研究所研究会「シナプス可塑性の分子基盤」に参加して	5
若者のゴードンリサーチカンファランス(GRC)へ参加の勧め	6
- 書評欄 -	
「見る」とはどういうことか 脳と心の関係をさぐる	7
シンポジウム・研究会のお知らせ	8
研究助成	12
公募	12
その他	14
編集後記	14

There will be 3 plenary lectures, 40 symposia (including 194 presentations), 288 regular oral presentations, 1266 poster presentations, and 13 luncheon seminars. 63 companies will have exhibitions (108 booths) along with 12 book retailers.

We would like to ask all the society members to join this wonderful meeting. We believe that attendants will enjoy intense discussion, make new friends, and renew friendships, making this an extremely fruitful three-day period.

The schedule:

Sep. 8 & 9th (Sat & Sun)

Satellite symposia

Sep. 10th (Mon)

8:30-11:00 Symposia

11:00-12:00 Poster core time

12:00-12:50 Luncheon seminars

13:00-14:00 Poster core time

14:00-18:00 Regular oral sessions

18:15-19:15 Plenary lecture

(Prof. Heinrich Betz)

Sep. 11th (Tue)

8:30-11:00 Symposia

11:00-12:00 Poster core time

12:00-12:50 Luncheon seminars

13:00-14:00 Poster core time

14:00-18:00 Regular oral sessions

18:15-19:15 Plenary lecture

(Prof. Michael E. Greenberg)

19:30- Banquet

Sep. 12th (Wed)

8:30-11:00 Symposia

11:00-12:00 Poster core time

12:00-12:50 Luncheon seminars

13:00-14:00 Poster core time

14:00-15:00 Plenary lecture

(Prof. Earl K. Miller)

14:00-18:00 Symposia

Sep. 13th (Thu) Satellite symposium

Poster presentations are assigned to the whole day.

Abstract viewer

A program booklet and CD containing the Abstract viewer have been mailed to those who have pre-registered for the meeting. The society members who have not pre-registered for the meeting have received the CD together with this news letter. Please install the Abstract viewer on your computer to use. The Abstract viewer can also be downloaded from the Neuro2007 homepage and society homepage.

On-site registration

If you did not pre-register for the meeting, on-site registration will be available. The registration fees are 15,000 yen for regular members, 3,000 yen for student members, 17,000 yen for non-members, and 6,000 yen for non-member students. Student ID will be required to show at the registration to register as a student. Only cash will be accepted (no credit cards).

Neuroscience Research Supplement

The first authors of papers paid a publication fee of 4,000 yen. We have changed the way to provide the supplement issue. The issue will be mailed to the first authors about a week after the meeting. We assume that this is more convenient, but apologize for any inconvenience caused by this change.

Admission to the society and payment of annual membership fees

The Japan Neuroscience Society will have a desk next to the general reception desk. Non-members can make the procedure to apply for society membership at the desk. Also, members can pay their annual fees there. Only cash will be accepted.

Day care

There will be child care services available at the meeting. Please visit the Neuro2007 homepage for information. There is a related article in this news letter written by Dr. Tatsumi Hirata, who is the chair of the Committee for the Promotion of Gender Equality.

Questionnaire

There will be questionnaire sheets at the meeting. The sheets have also been enclosed with the program booklet. We will appreciate your frank opinions so that future meetings will be even better.

Visit our homepage for more information.
<http://www2.convention.jp/neuro2007/index.html>

The Organizing Committee
of the 30th Annual Meeting
of the Japan Neuroscience Society

Neuro2007 

2007年9月10日(月)～12日(水)
パシフィコ横浜

Neuro2007の開催が迫ってきました。この会は、第30回日本神経科学大会、第50回日本神経化学会大会、第17回日本神経回路学会大会の合同大会です。脳・神経科学の広い分野での最新の研究を発表・議論します。

実行委員会では、我が国における脳・神経科学が科学・技術の広い分野との協力と融合を進め、世界との繋がりをますます深めるようになることを目指して企画・準備してきました。

3日間の会期中には、プレナリー講演3件、シンポジウム40件(194演題)、一般口演288件、ポスター1266件、ランチョンセミナー13件と、多くの演題が発表されます。また、63社から108小間の機器展示、12社から書籍展示がなされます。

多くの会員の皆様がNeuro2007に参加くださることを願っています。そして、激しく討論し、刺激の中で研究構想を考え、新しい仲間を作り、旧交を温め、参加者の皆様の3日間が実り豊かなときになりますことを心からお祈りします。

プログラム概要

9月8、9日(土、日) サテライトシンポジウム
9月10日(月)

8:30 - 11:00 シンポジウム
11:00 - 12:00 ポスターコア時間
12:00 - 12:50 ランチョンセミナー
13:00 - 14:00 ポスターコア時間
14:00 - 18:00 一般口演
18:15 - 19:15 プレナリー講演
(Prof. Heinrich Betz)

9月11日(火)
8:30 - 11:00 シンポジウム
11:00 - 12:00 ポスターコア時間
12:00 - 12:50 ランチョンセミナー
13:00 - 14:00 ポスターコア時間
14:00 - 18:00 一般口演
18:15 - 19:15 プレナリー講演
(Prof. Michael E. Greenberg)
19:30 - 懇親会

9月12日(水)
8:30 - 11:00 シンポジウム
11:00 - 12:00 ポスターコア時間
12:00 - 12:50 ランチョンセミナー
13:00 - 14:00 ポスターコア時間
14:00 - 15:00 プレナリー講演
(Prof. Earl K. Miller)
15:15 - 17:45 シンポジウム

9月13日(木) サテライトシンポジウム

ポスター発表は終日で、午前/午後の張り替えはありません。

抄録検索システム

事前参加登録をいただいた皆様にはプログラム冊子体と抄録検索システムCD版をお送りしました。事前参加登録をされなかった会員の皆様には本ニュースに抄録検索システムCD版を同封しました。CDからコンピューターに抄録検索システムをインストールしてお使いください。なお、抄録検索システムは大会ホームページおよび学会ホームページからもダウンロードできます。

当日参加登録

事前参加登録をされなかった皆様は、当日登録でご参加ください。参加費は一般会員15,000円、一般非会員17,000円、学生会員3,000円、学生非会員6,000円です。支払いは現金のみで、クレジットカードは使えません。発表を伴わない学部学生の参加は無料です。学生の方は学生証の提示が必要です。

Neuroscience Research Supplement

筆頭著者の皆さんにはNeuroscience Research Supplementの掲載料をお支払いいただきました。冊子を大会当日にお渡しする予定を変更し、大会の約1週間後に郵送させていただくことにしました。大会当日の手荷物が少なくなって参加者の皆

様に好都合であると判断しました。ご了承ください。

会場での学会入会、年会費の支払い
会議センター2階の総合受付の隣に学会デスクを設置し、学会への新規入会、会員の皆さんの年会費の支払いを受け付けます。ご利用ください。また、お知り合いの非会員の方々に入会を勧めてください。支払いは現金のみです。

託児室

男女共同参画推進委員会と協力して託児室を設置しました。ご利用ください。なお、本ニュースに男女共同参画推進委員会の平田たつみ委員長からのメッセージがあります。

アンケート

大会運営に関するアンケート要旨を大会会場に置きます。また、事前参加登録いただいた方々にはプログラム冊子体に同封して郵送しました。来年以降の大会運営に反映しますので、皆様の率直なご意見をお寄せください。

その他の情報は大会HPをご覧ください。

<http://www2.convention.jp/neuro2007/jp/index.html>

第30回日本神経科学大会実行委員会

Child Care Service at Neuro2007

The Japan Neuroscience Society has sponsored child care services at the annual meetings since 2004, and is pleased that the services are gaining in popularity each year among the members.

At the coming Neuro2007 in Yokohama, the child care service will also be provided on-site at a reasonable cost (200 yen/30 min) thanks to the support from the meeting organization. Please visit the Neuro2007 website given below for details and register for the service by September 3rd. After the deadline, accommodation will be subject to availability.

<http://www2.convention.jp/neuro2007/accommodation/index.html>

Neuro2007 will also arrange a resting/nursing room, which is kept open to parents and the children free of charge. The room is designed for children take a rest, have a meal or play under parental supervision.

(Committee for Promotion of Gender Equality ,
The Japan Neuroscience Society)

Neuro2007 大会託児室のご案内

2004年度大会から開設されている学会託児室ですが、毎年利用者も順調に増えており、会員のみなさんの間にも定着してきた感があります。より多くの研究者に愛される開かれた団体をめざす日本神経科学学会としては、非常に喜ばしいことだと考えています。

さて、きたる Neuro2007 横浜大会でも、会場内に託児室を特設いたします。みなさんに安心して利用していただけるように準備をすすめておりますので、どうかご利用下さい。今年度も大会本部からの厚い後援をいただき、利用しやすい価格設定(200円/30分)となっております。詳細については、下記の大会託児室ホームページをご覧の上、9月3日(月)までにご予約ください。締切日以降も余裕があれば対応いたしますのでご相談ください。

<http://www2.convention.jp/neuro2007/jp/accommodation/index.html>

なお大会場には、託児室とは別に、親子休憩室も設営いたします。この部屋の利用については予約や料金は不要ですので、お子様と一緒にのお食事や休憩に、お気軽にご利用ください。ただしご利用の際は必ず保護者の方がご同伴ください。

(日本神経科学学会 男女共同参画推進委員会)

平成19年度日本神経科学学会 奨励賞受賞者が決定

平成19年度日本神経科学学会奨励賞は下記の5名の方が受賞される事に決定しました(括弧内に所属と申請課題を示します)。授賞式は第30回日本神経科学大会会期中に、開催されます。

池田 弘 IKEDA HIROSHI
(福井大学、脊髄後角におけるシナプス可塑性の機序)

磯村 宣和 ISOMURA YOSHIKAZU
(理化学研究所、大脳皮質・海馬ネットワーク活動のインビボおよびインビトロ解析)

後藤 幸織 GOTO YUKIORI
(University of Pittsburgh、目標達成行動を担う側坐核におけるドーパミン依存性の辺縁系および皮質情報の統合)

神野 尚三 JINNO SHOZO
(九州大学、海馬GABA作動性ニューロンのステレオロジー定量解析)

坪井 貴司 TSUBOI TAKASHI
(理化学研究所、ホルモン分泌顆粒ドッキング機能の分子メカニズムの解明)
(50音順；敬称略)

日本神経科学学会理事選挙のお知らせ(予告)

本年秋に、日本神経科学学会理事選挙が行われます。9月初めに会員あてのメール、学会ホームページ(<http://www.jnss.org/index.html>)、および次号の神経科学ニュースにて正式に選挙が公示されます。

尚、今回の理事選挙からホームページを用いた電子選挙が行われます。電子選挙では、会員の認証のために予め電子メールアドレスの登録によるパスワード取得が必須となります。今回の選挙では、従来の紙媒体を用いた方法も補足的に行いますが、将来的には全て電子選挙に移行する可能性があります。また今後も学会からの各種連絡を受け取ったり、会員ページにアクセスするためにはIDとパスワードが必要です。したがって、まだ手続きを済まされていない方は、是非、早い機会にホームページ上の案内(http://www.jnss.org/member_a/about_db.html)に従って登録手続きをお願いします。

尚、一度登録が済むと、ID番号やパスワードを忘れた場合でも、学会会員ページ(<http://www.jnss.org/member/member.php?tim=11513>)か

ら簡単に再取得できます。またこの会員ページからは、登録情報の変更や、過去の神経科学ニュースなどの各種情報が取得できます。

理事選挙電子化委員会
委員長 柚崎通介

生理学研究所研究会 「シナプス可塑性の分子基盤」 に参加して

京都大学大学院工学研究科
合成・生物化学専攻森研究室
博士課程一年 瓜生幸嗣

平成19年6月21日から22日にかけて、自然科学研究機構・生理学研究所で開催された生理学研究所研究会「シナプス可塑性の分子基盤」に参加させていただきました。

この研究会は、シナプスの分野において、最先端で活躍されている若手の先生が、最新の結果を持ち寄って討論される場でした。一人一時間の講演が二日にわたって8演題。そのどれもが、この分野のトップジャーナルに報告された内容ばかりで、非常に高いレベルの内容と、密度の濃い討論が繰り広げられていました。討論が活発で、質問時間も長かったため、分野のトップを走っておられる先生方に混じって、私のような大学院生にも質問させていただける機会があったことは、本当にありがたく思います。プレリミナリーなデータを含めての発表が多く、ここでしか聞くことの出来ないデータも多くあったのではないかと思います。

研究会に参加して痛感したことは、この分野でのタンパク質化学的手法の重要性でした。シナプスで情報伝達に関わる分子は多くが同定されていますが、その分子が情報伝達や、シナプスの可塑性な変化といったダイナミックなプロセスの際に如何に相互作用し、その相互作用を変化させるかが研究の焦点になっているように思います。このような問題意識の解決には、タンパク質複合体の解析が必要不可欠であり、このような解析にとってのタンパク質化学の強力さを思いました。実際、今回発表された先生方の多くがPSD分画や、シナ

プス小胞、輸送小胞といった重要な複合体のフラクショネーションから、シナプスの機能にとって重要なタンパク質複合体の機能に迫っておられました。私は、主として、分子生物学と電気生理学的な手法を学んできた学生ですので、こういった繊細なフラクショネーションの技術は多くのものが目新しく、大きな刺激になりました。

また、「シナプス」という共通のテーマに向かって、さまざまなバックグラウンドを持つ先生が得意分野を生かしたアプローチで切り込まれているため、発表に対する討論は多岐に渡りました。先生方の質問を聞いているだけでも、データに対する新たな切り口、視点に触れることが出来たのは、貴重な機会だったと思います。

研究会の後には、生理学研究所内で懇親会が行われ、発表された先生方や他の研究室の大学院生との交流の機会がありました。初めて話す学生に対しても、先生方は快く質問に答えてくださり、また、留学先での経験や仕事の経緯など、発表ではわからない貴重なお話を聞くことが出来ました。最先端の研究をされている先生方はみな、エネルギーギッシュで、研究に対する情熱の強さを感じました。

懇親会やコーヒーブレイクの場では、先生方同士が共同研究の話がされている場面に、よく出食わしました。この研究会をきっかけに走り始めるプロジェクトも少なくないと感じました。同時に、研究者として仕事をしていくうえで、自分自身の研究に対する専門知識だけでなく、積極性と協力関係がどれだけ重要かを再確認しました。私のような大学院生が書くのも恐縮ですが、今後もこの会が発展して、ここから始まったプロジェクトが実を結ぶようなポジティブフィードバックループが出来れば、すばらしいことだと感じました。



若者のゴードンリサーチ カンファランス(GRC)へ 参加の勧め

群馬大学大学院医学系研究科
神経科学系高次細胞機能学
白尾智明

今年もゴードンリサーチカンファランス「Excitatory Amino Acid and Brain function」が、ボストンからバスで2時間ほど揺られたニューハンプシャー州のニューロンドンという小さな町にあるコルビー・ソイヤー大学で開かれました。GRC事務局の人の話では、今年コルビー・ソイヤー大学で開催されるGRCでは最大のものだと言うことで、たぶん参加者は100人を超えていたと思います。日本からは岡部繁男教授がスピーカーとして招待されていました。また、ポスター参加者の中から若手を中心にスピーカーが選ばれましたが、大御所よりも興味深い発表をすることが多く、この分野でも世代交代が進んでいるようです。日本人としては大塚稔久博士がポスターからスピーカーに選ばれていました。GRCの規約により発表内容に踏み込むことはできませんが、大塚博士はご自分の発見した蛋白の命名についてシュードツ博士と正面から対立した発表をしていましたが、大塚博士の方が会場のサイレンスマジヨリティーの支援を受けていたように感じました。

日本からは総計で6人ほど参加していました。この数は昔とあまり変わらないのですが、GRCにおける日本人の立場もだいぶ変わってきていると思います。昔は、日本人が集まったりしていると他の国の人になかなか入り込めない雰囲気でしたが、最近は日本人の集団が日本語で話していても、平然とアメリカ人が英語で話しに入ってきて、そうすると自然に英語で話すようになり、また日本人だけになると自然と日本語に戻るなど、非常に自然でした。大声で笑っているのもアメリカの大御所が日本人たちでした。だいぶ変わった気がします。

このExcitatory amino acidのGRCは隔年開かれています。他のGRCよりもお金を集めることにたけているグループのようで、2回に一回はヨーロッパで開催されています。そのため、議長はお金集めができるかどうか一つの目安になってい

るようです。ちなみに今回はマレンカ博士が議長で、アルコールはただで、飲み放題でした。2009年にはウェストブルック博士が議長となって、ヨーロッパで開かれるようですが、第一候補地がスイスだと言うことしか決まりませんでした。日本には残念ながら今のところGRCの開催地はありません。これはひとつには、日本からの若者の参加者が少ないと言うことだと思います。若い日本人を時々見かけますが、ほとんどがアメリカ留学中の人です。日本からの若い人の参加を推奨したいと思います。参加する際にハードルとして感じるのは、参加申し込みの際に自分のアピールを書かなければいけないことです。そのアピールを議長が判断して、参加を認めるかどうか決めるのですが、早めの申し込みをすれば参加が認められる可能性は非常に高いように思います。

費用に関しては、うまくグラントがとれば問題ありませんし、参加するGRCそのものからも旅費が支給される可能性があります。またグラントがとれないとしても、参加費には宿泊費と食費が全て込みになっていますので、安価で滞在することができます。日曜日の3時までにはボストン・ローガン空港のホリデイインに集合できれば、後は金曜日のお昼に空港で解放されるまで、お金はかかりません。残念ながら、お昼過ぎから日本へ帰ってくる飛行機はありませんので、どこかの研究室にやることができれば一番コストパフォーマンスが高いでしょう。この際、神経科学学会としてもGRCへの参加費の援助を考えて見たらいかがでしょうか。



- 書評欄 -

「見る」とはどういうことか 脳と心の関係をさぐる (単行本)

(藤田一郎 [著]、化学同人)

(独) 科学技術振興機構
社会技術研究開発センター
福士珠美

本書は、日本の視覚研究を代表する一人である藤田一郎先生の初めての単著である。2007年1月より刊行されているDOJIN選書シリーズの、これが7作目として5月に発売されたばかりだ。

ご本人から「初めて一人で本を書いてみました」と本書のことを伺って驚いた。先生の書かれた文章は、神経科学ニュースをはじめとした寄稿文などで皆さん折りに触れご覧になっていると思うが、その文才たるや、今まで単著がなかったのが不思議なくらいに軽妙且つ洞察に満ちた、素晴らしいものと記憶していたからである。

本書の内容は「見る」と「見える」ことの違い、すなわち視覚情報の受容と知覚の相違を題材に「脳と心の関係」に言及しており、視覚神経科学の入門書として高く評価できるだろう。巻頭に踊る数々の錯視図形の不思議さに目を奪われ、直感的に「見る」と「見える」の違いがわかると、その仕組みを知りたいという単純な欲求に引きずり込まれるようにどんどん本文を読み進めていける構成になっている。錯視の話から視覚野に損傷をうけた患者さんの話、大脳視覚野の紹介、そして視覚情報処理を支える神経細胞やコラムの話へと難度が増していき、第5、6章では、知覚情報処理や両眼視差情報処理に関する最先端の研究成果が業界の内幕とともに紹介されている。視覚研究にかなりの知識がなくては読みこなすことができない印象もあるが、そこを補うべく、主観的なエピソードやコラムを交えて読者の興味がそがれないような配慮が見られる。

最終第7章において「見る」「見える」からさらに発展したような「見つめる」とでも言えばよいのだろうか、脳科学者として「心」についてどのように考えていけばよいのかという著者自身の内観が短く紹介されている。この章が次の単著への序章であることを期待したくなるような、充実した読後感が得られる書である。

INFORMATION

シンポジウム・研究会



第54回中部日本生理学会・第100回近畿生理学会 生理学談話会合同大会

日程:2007年10月19日(金)20日(土)
会場:三重大学大学院医学系研究科
先端医科学教育研究棟および三翠ホール
当番幹事: 三重大学大学院医学系研究科
山本 哲朗・山崎 英俊

連絡先:

〒514-8507
三重県津市江戸橋2 - 174
三重大学大学院医学系研究科
システム神経科学内

第54回中部日本生理学会・第100回近畿生理学会
生理学談話会合同大会事務局 (担当:河村)
TEL:059-231-5548, FAX:059-231-5005
E-mail:physiol@doc.medic.mie-u.ac.jp

演題締切: 2007年8月20日必着

詳細: http://www.medic.mie-u.ac.jp/physiol_regener/chubu_kinki/index.html



「バイオ分子センサー 連携研究プロジェクト」 レクチャーコース 『五感に関わる分子 センサーの多彩な機能』

日時 2007年8月30日(木) - 31日(金)
会場 自然科学研究機構岡崎コンファレンス
センター(愛知県岡崎市)

連絡先 〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町西郷中38
自然科学研究機構生理学研究所 箕越靖彦
TEL:0564-55-7744

E-mail:biomol@nips.ac.jp

参加費 無料

詳細は、<http://www.nips.ac.jp/biomol/>
をご覧ください。



「第21回国際哺乳類 ゲノム会議」

21st International Mammalian Genome
Conference(IMGC2007)

日時:平成19年10月28日(日)~31日(水)
場所:京都テルサ(京都勤労者総合福祉セン
ター)

主催:国際哺乳類ゲノム学会(IMGS)、独立行
政法人理化学研究所

開催責任者:林崎良英(独立行政法人理化学研
究所 ゲノム科学総合研究セン
ター 遺伝子構造・機能研究グループ プロ
ジェクトディレクター)

URL:<http://www.imgc2007.com/>



第16回日本バイオ イメージング 学会学術集会

主催 日本バイオイメージング学会
協賛 神経科学学会ほか
期日 10月31日(水)～11月2日(金)
会場 東京理科大学セミナーハウス
内容

31日 公開シンポジウム
「理学と工学が拓くバイオイメージング」
1日
特別講演、シンポジウム、ポスター発表など
特別講演 「ライブセルイメージングの野望 -
時空間分解能への挑戦」
2日
シンポジウム、ポスター発表、奨励賞受賞講
演など

参加費
一般(会員 5,000円、非会員 7,000円)、
学生 3,000円
ただし公開シンポジウム 無料
申込 大会ホームページより申込できます。
また、当日も受け付けます。
連絡先
〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科
大学理工学部応用生物科学科 新井孝夫
(電話 04-7122-9387、Fax 04-7123-9767、E-
mail takarai@rs.noda.tus.ac.jp)
詳細については、大会ホームページ([http://
www.nih.go.jp/yoken/bioimaging/index-
j.html](http://www.nih.go.jp/yoken/bioimaging/index-j.html))をご覧ください。



International School on Neural Nets "E. R. Caianiello" 12th Course Dynamic Brain

URL
<http://www.physics.unisa.it/dynamicbrain/>

Date:from Dec. 5-12, 2007
Place:the Ettore Majorana Center in Erice, Italy

Co-Directors
Yoko Yamaguchi, RIKEN BSI
Maria Marinaro, University of Salerno
Silvia Scarpetta, University of Salerno

Jointly organized by
RIKEN Brain Science Institute(BSI)
Dept. of Physics,.R.Caianielloic, University of
Salerno, Italy
Ettore Majorana Foundation and Center for
Scientific Culture (EMFCSC)

Lectures
Markus Diesmann RIKEN BSI
Sonja Gruen RIKEN BSI
Leslie M. Kay, University of Chicago
Maria Marinaro, University of Salerno
Bruce McNaughton, University of Arizona
John O'Keefe, University College London,
Naoyuki Sato RIKEN BSI
Silvia Scarpetta, University of Salerno
Wolf Singer, Max Planck Institute for
Brain Research
Nachum Ulanovsky University of Maryland
Yoko Yamaguchi, RIKEN BSI
(TBC)

Important Dates:
Application deadline: Sept 30 2007
Notification of acceptance:Oct 25 2007
Registration fee payment deadline:Nov 10
2007
Arrival Dec 5 2007
Departure Dec 12 2007



システム・情報部門
 学術講演会 2007
 (SSI2007)

計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会 2007(SS12007)を下記の要領で開催します。境界領域を含めた幅広い範囲で講演を募集します。皆様のご参加をお待ちしています。

主催・企画

計測自動制御学会 システム・情報部門
 日時 2007年11月26日(月)～28日(水)
 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

申込方法

Web ページからお申込みいただきます。詳細は <http://www.ssi2007.org/> をご覧ください。

申込締切 8月31日(金)
 原稿枚数 2、4または6ページ
 原稿締切 10月5日(金)
 講演時間 質疑を含め15～20分程度
 参加費 10月31日までに振込の場合:
 10,000円
 11月1日以降:12,000円

問合せ先 E-mail: office@ssi2007.org
 詳細は <http://www.ssi2007.org/> をご覧ください。



生理学研究所研究会
 「注意と意志決定の
 脳内メカニズム」

日時:平成19年10月11日13時～12日12時
 場所:生理学研究所(愛知県岡崎市)
<http://www.nips.ac.jp/kenkyukai/2007/>

講演(敬称略)

「注意のトップダウン制御原理 - 次元加重、課題構え、探索モード」
 熊田 孝恒(産業技術総合研究所)
 「脳損傷患者における注意と意思決定」
 鈴木 匡子(山形大学大学院医学系研究科)
 ヒトにおける金銭的価値の脳内表現 - 機能的MRIによる神経経済学的研究」
 筒井 健一郎(東北大学大学院生命科学研究科)
 「情動に基づく意思決定のための大脳基底核関連回路」
 中原 裕之(理化学研究所 BSI)
 「社会的状況における意思決定のメカニズム」
 春野 雅彦(国際電気通信基礎技術研究所)
 「行動価値予測の誤差とリスク - 行動適応における前頭前野内側部の役割」
 松元 まどか(理化学研究所 BSI)
 「意思決定の適当さ」
 渡邊 克巳(東京大学 先端研)
 「盲視モデル動物における注意、意志決定、視覚意識」
 吉田 正俊(生理学研究所)
 「注意が行動決定に変わるとき - 変換場としての頭頂連合野機能」
 小川 正(京都大学大学院医学研究科)

指定討論者(敬称略)

一戸 紀孝 (理化学研究所 BSI)
 小林 康 (大阪大学大学院生命機能研究科)
 小村 豊 (産業技術研究総合研究所)
 鮫島 和行 (玉川大学脳科学研究科)
 田中 真樹 (北海道大学大学院医学研究科)
 中原 潔 (国立精神・神経センター)
 星 英司 (玉川大学脳科学研究科)

連絡先:

吉田 正俊 生理研 (myoshi@nips.ac.jp)
 小川 正 京都大学大学院医学研究科
 (togawa@brain.med.kyoto-u.ac.jp)



第3回「脳の機能発達 と学習メカニズムの 解明」シンポジウム ご案内

- 脳を育む：発達・学習・機能回復の脳科学 -

開催趣旨

(独)科学技術振興機構(JST)・戦略的創造研究推進事業(CREST)の研究領域「脳の機能発達と学習メカニズムの解明」(研究総括：津本忠治)は学習に関与する脳機能やヒトに特有な言語などの高次脳機能の発達メカニズム、さらに精神・神経の障害からの機能回復機序の解明を目指す研究を対象として、平成15年度に発足しました。

現在15課題が採択され研究を行っていますが、今回、今までの多くの研究成果のなかでも特に発展の目覚ましい「発達・学習・機能回復」に関する研究成果に焦点をあて公開シンポジウムを開催いたします。

この領域の研究者のみならず、他の領域の研究者、さらには一般の方々に研究成果をご報告し、皆様からのご批判とご助言を受けて研究をさらに進展させることを目指しています。

日時 平成19年11月10日(土)10:00～17:00

場所 虎ノ門パストラル 1階 鳳凰

(東京都港区虎ノ門4-1-1)

プログラム：URL:<http://www.brain-l.crest.jst.go.jp/info/symposium.htm>

参加費:無料

主催 独立行政法人 科学技術振興機構(JST)

参加申込み方法 (先着順 定員になり次第締切らせて頂きます)

氏名、勤務先、〒住所、所属、電話を明記の上、下記のURL、E-mail又はFAXでお申込み下さい。

URL:<http://www.brain-l.crest.jst.go.jp/info/symposium.htm>

E-mail:brain-s3@brain.jst.go.jp

FAX:06 - 6872 - 3591



第9回国際NPY Meetingの 開催のお知らせ

第9回NPY Meetingを平成20年(2008年)3月16日(日)～20日(木)にわたり沖縄にて日本で初めて開催する運びとなりました。

皆様の御参加をお待ち致しております。

シンポジウムのテーマ

Transgenic and Molecular Approaches,
Interdisciplinary Approach

Obesity, Metabolism and Diabetes,

Neuropeptide Y Receptor Agonist/
Antagonist and Ghrelin

会期:

平成20年(2008年)3月16日(日)～20日(木)

会場:

沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ
〒904-0401

沖縄県国頭郡恩納村名嘉真ヤーシ原2591-1

事務局および連絡先

〒890-8544 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

社会行動医学講座行動医学分野 会長 乾明夫

第9回NPYミーティング事務局

Tel: 099-275-5751 Fax: 099-275-5749

e-mail:npy_9th@yahoo.co.jp

研究助成



(財)ブレイン
サイエンス振興財団
公募開始のお知らせ

(財)ブレインサイエンス振興財団は、このたび下記の各助成について平成19年度の公募を開始いたしました。

塚原伸晃記念賞：

締切り日 平成19年10月26日(金)

研究助成：

締切り日 平成19年10月26日(金)

海外派遣研究助成：

締切り日 平成20年1月18日(金)

海外研究者招聘助成：締切り日

平成20年1月18日(金)

詳細は財団ホームページをご覧ください。

URL: <http://www.bs-f.jp/>

公 募



沖縄科学技術大学院大学
細胞分子シナプス機能
ユニット研究員、
技術員募集

当ユニット(代表研究者:高橋 智幸、同志社大学生命医科学部兼任)は、げっ歯類脳幹スライスの巨大シナプス calyx of Held に電気生理学と分子生物学の手法を適用して、伝達物質放出・制御の細胞、分子機構を研究しております(<http://synapse.doshisha.ac.jp/>)。

当ユニットでは、電気生理学の研究に携わる研究員と、分子生物学の研究に携わる技術員を募集いたします。

[募集内容] 研究員、技術員: 各1名

[応募資格] 研究員は博士号取得者で、細胞生理学研究の経験を有することが望ましい。技術員は自然科学系の大学または大学院修士課程卒で、分子生物学の基礎知識と実験経験を有すること。

[採用] 単年度契約(更新可)待遇 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構の規定に準拠

[着任時期] 平成19年9月1日以降(相談可)

[勤務場所] 沖縄県うるま市州崎12-2 工業技術センター内

[応募書類] 履歴書、論文業績リスト、志望動機と抱負(A4:1枚程度)、推薦状(1通)

[応募〳切] 予定人数に達し次第、〳切(お問い合わせ下さい)

[選考方法] 書類選考後、面接

[連絡・書類提出先] 江頭 香里 〒904-2234
沖縄県うるま市州崎12-2 沖縄工業技術センター内 沖縄科学技術研究基盤整備機構 高橋ユニット

TEL 098-929-0617 FAX 098-929-0596 Email
takahashi-recruit07@oist.jp



長崎大学「地方総合大学 における若手人材育成 戦略」助教の募集

1. 重点研究課題概要

いじめ、暴力、ひきこもり等の子どもの問題行動の大部分は、コミュニケーション能力（情動認知能力および情動表出能力）が障害されることに端を発すると考え、問題解決の一助とする為に、子どものコミュニケーション能力に関与する生物学的因子と環境因子を解明する。具体的には以下のテーマで研究を行う。
(1) 子、親、教師それぞれのコミュニケーション能力の科学的分類法の確立 (2) 子のコミュニケーション能力の違いに関連する脳活動とホルモン動態の解明（生物学的因子）(3) 異なるコミュニケーション能力をもつ i) 子 - 子、ii) 子 - 親、iii) 子 - 教師、の関係性の解明（環境因子）

2. 募集領域等

募集人数は助教1名。本事業は、客観的指標を用いて、子どものコミュニケーション能力をタイプ分けし、その能力の違いをもたらす生物学的因子および環境因子を明らかにする。また、どのようなコミュニケーション能力タイプの子ども同士が会おうと、いじめ、暴力、ひきこもり等の温床となるのかを明らかにする。そこで、認知・行動科学、情報工学、脳科学の各分野による研究を進める。本事業の助教（テニユア・トラック）では、特に脳科学の研究者を募集する。

3. 応募要領（一部抜粋）

応募資格: (1) 採用時において博士の学位を有する者。採用時40歳未満であることが望ましい。(2) 担当する研究分野に関して優秀な研究業績を有すること。

採用予定期間: 平成19年12月1日より平成24年3月31日まで。

応募締切: 平成19年9月28日（金）17:00 必着
詳細は下記公募情報ホームページ参照。

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/wakate/>

4. 内容に関する照会先

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

教授: 篠原一之

E-mail: kazuyuki@nagasaki-u.ac.jp



東北大学グローバルCOE 「グローバル・ブレイン・ サイエンス拠点」 大学院生、ポスドクの 募集について

このたび東北大学では、生命科学分野のCOEとして「グローバル・ブレイン・サイエンス(GBS)拠点」を立ち上げました。本GBS拠点で活躍する大学院生（H20.4～）ポスドク（H19.10～）を広く募集いたします。詳しくは下記の拠点メンバーまでお問い合わせ下さい。

[ゲノム行動神経科学グループ]

山元大輔（行動遺伝学）

daichan@mail.tains.tohoku.ac.jp

仲村春和（神経発生学）

nakamura@idac.tohoku.ac.jp

福田光則（細胞生物学）

nori@mail.tains.tohoku.ac.jp

小椋利彦（分子生物学）

ogura@idac.tohoku.ac.jp

大隅典子（神経発達学）

osumi@mail.tains.tohoku.ac.jp

[身体性認知脳科学グループ]

飯島敏夫（脳神経科学）

t-iijima@mail.tains.tohoku.ac.jp

八尾 寛（ニューロンネットワーク）

yawo@mail.tains.tohoku.ac.jp

筒井健一郎（認知神経科学）

tsutsui@mail.tains.tohoku.ac.jp

虫明 元（神経生理学）

hmushiake@mail.tains.tohoku.ac.jp

石黒章夫（システム工学）

ishiguro@ecei.tohoku.ac.jp

[社会脳科学グループ]

森 悦朗（医学・教授）

mori@mail.tains.tohoku.ac.jp

曾良一郎（精神生物学）

isora@mail.tains.tohoku.ac.jp

福土 審（心身医学）

sfukudo@mail.tains.tohoku.ac.jp

糸山泰人（神経内科学）

yitoyama@em.neurol.med.tohoku.ac.jp

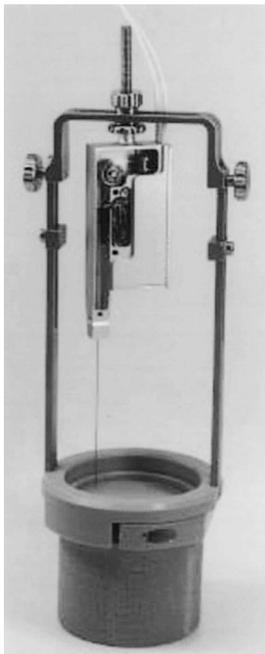
URL: http://www.lifesci.tohoku.ac.jp/topics/topics_0707.html あるいは <http://www.med.tohoku.ac.jp/room/GCOE/japanese.html>

Thomasの実力を御存知ですか？

ドイツ技術の精緻をあなたの研究室へ

超小型マイクロマトリックスシステム

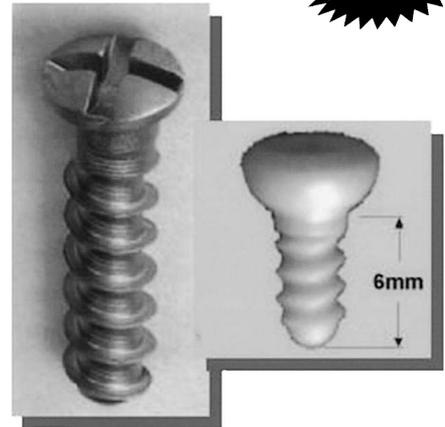
超軽量システム誕生、わずか63g!!



最新超軽量マイクロマトリックスシステムは、MRI計測に対応した埋め込み型グリッドアレイチャンバーと、超小型モータードライブのマイクロマトリックスから成り立っています。電気生理とMRI計測を両立させることが可能です。グリッドアレイ採用により正確な位置再現性が確保されます。掌にのる大きさを、是非実感して下さい（サイズ：チャンバーφ38mm：ドライブ53mm）

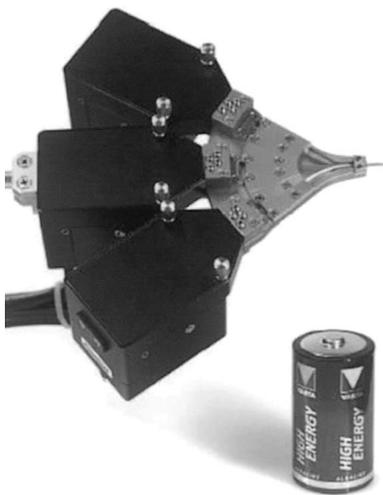


セラミックネジとチタンネジ



チャンバー等の埋め込み、固定用にセラミックとチタン製のネジを御用意致しました。セラミックネジはMRI計測に最適です（消毒済み製品を、お届け致します。）

48チャンネルミニマトリックスドライブ



ミニマトリックスは、霊長類脳に固定可能な多電極用小型軽量マニピュレータで、最小軸径25 μ mのワイヤ電極を扱うことが可能です。Thomasのオリジナル（Eckhorn）回路採用により、ヒステリシス皆無の脳内マニピュレーション動作環境をお届けします。最新型の48チャンネルモデルでは、3台のミニマトリックスドライブを組み合わせるにより、12本の独立電極、または12 \times 4本電極（48チャンネル）が操作可能となっております。また御使用に当たっては、頭蓋固定用チャンバーや固定器具（MRI対応製品）のカスタマイズ化にも対応致しております。今までにない小型システムを是非お試しください（単一電池と大きさをお比べ下さい!!!）

※Thomas RECORDING社の製品は全て、アカデミックプライスで提供させていただいております。弊社ホームページで確認下さるか、または弊社まで直接にお問い合わせ下さるよう、是非、お願い致します。

ショーシン EM 株式会社

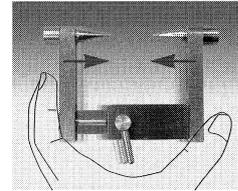
〒444-0241 愛知県岡崎市赤渋町蔵西1-14
TEL: (0564)54-1231 FAX: (0564)54-3207
URL: <http://www.shoshinem.com>

簡単に。確実に。ソフトに。

NARISHIGEの固定装置へのこだわり

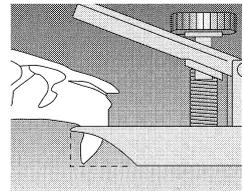
片手で簡単に操作できる補助イヤバー

二本の指で挟み込むようにするだけで滑らかに動作するアリ機構を採用。固定時の感触を指先で確かめながら、左右の耳部をソフトなタッチで固定することができます。



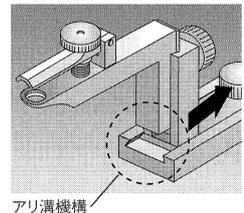
薄くて小さな口金具

マウスやラットの小さな口部に合わせて口金部を薄く、小さく設計しています。歯が固定されている様子が容易に確認でき確実な固定をサポートします。



滑らかに動作する位置調整機能

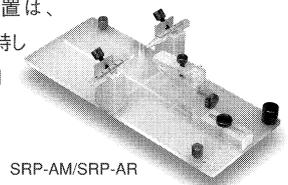
口鼻金具の位置調整はアリ溝機構を採用し、きわめて滑らかに動作します。口鼻金具を引っ張る時の微細な感触が手に伝わってくるので、誤って歯を折ってしまったり、外れてしまう心配が少なくなります。



アリ溝機構

MRIに対応した頭部固定装置

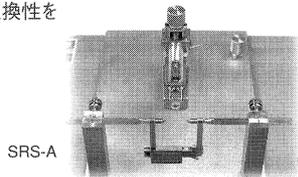
100%プラスチックの頭部固定装置は、ナリシゲのSRシリーズと高い互換性を維持しました。脳定位固定に加え、これからMRI測定も行いたいという方に最適です。



SRP-AM/SRP-AR

新生ラットからマウスまでの微細調整機構

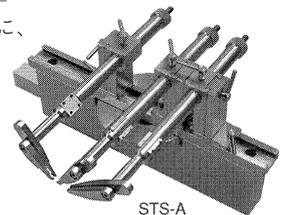
従来固定が難しかった新生ラットを安全に固定する、細部の微細な調整機構を装備した頭部固定装置を開発しました。SRシリーズとの高い互換性を維持しています。



SRS-A

デリケートな脊髄をソフトにクランプ

壊れやすく脆い脊髄を安全にクランプするために、手の力加減で微細な調整が可能。ソフトなクランプはマウスやラット新生児にも有効です。



STS-A

詳しくは当社担当までお問い合わせください。

インターネットホームページなら、他の各種製品の詳細も手にとるように判ります。 <http://www.narishige.co.jp>

株式会社 **成茂科学器械研究所**

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4丁目27番9号 TEL.03-3308-8233 FAX.03-3308-2005

e-mail: sales@narishige.co.jp